

## 平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽南中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成29年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語A 256人 国語B 256人

② 数学A 255人 数学B 255人

#### 5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

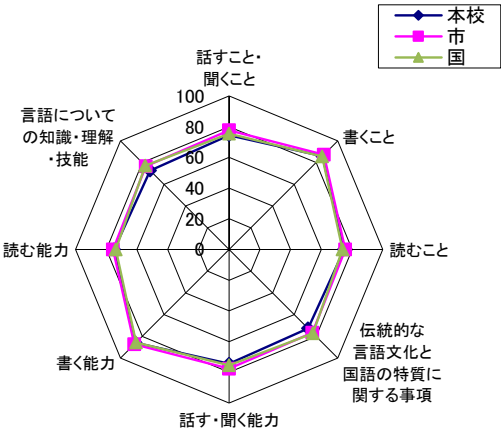
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽南中学校第3学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

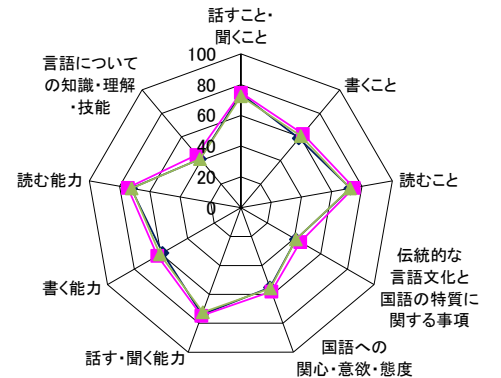
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	74.4	77.6	75.4
	書くこと	85.9	87.3	85.7
	読むこと	74.9	75.6	73.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.7	76.6	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	74.4	77.6	75.4
	書く能力	85.9	87.3	85.7
	読む能力	74.9	75.6	73.8
	言語についての知識・理解・技能	72.7	76.6	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	74.0	74.8	72.4
	書くこと	58.8	62.6	60.8
	読むこと	72.4	74.6	72.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	41.4	44.7	41.4
観点	国語への関心・意欲・態度	55.3	58.0	55.9
	話す・聞く能力	74.0	74.8	72.4
	書く能力	58.8	62.6	60.8
	読む能力	72.4	74.6	72.1
	言語についての知識・理解・技能	41.4	44.7	41.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

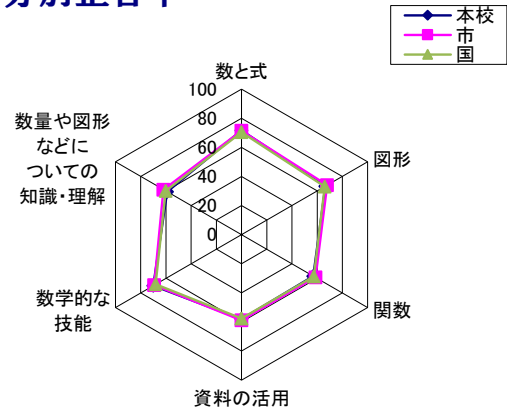
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○相手に分かりやすいように語句を選択して話すという問題の正答率は市、全国と同程度である。 ●事実と考えとの関係に注意し、構成を工夫して話すという問題については、市より3. 6ポイント、全国より3. 4ポイント低い。 ●話すための材料を人との交流を通して集めるという問題については、市より2. 2ポイント、全国より2. 7ポイント低い。	・相手の話の要点がどこにあるのか、小グループでの意見交換の場などで注意深く聞くようにする。また、的確に話を聞くポイントについて資料を精選して生徒に提示するなどの学習を行っていく。
書くこと	○一文を書き加える際に参考にした助言として適切なものを選択するという問題については、市より3. 6ポイント、全国より3. 2ポイント高い。 ●スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直すという問題については、市より2. 2ポイント、全国より3. 6ポイント低い。	・各学年に配置されている「書くこと」の学習教材を使うだけでなく、巻末の「学びを支える言葉の力」を活用することで、書く力を身に付けさせるようにする。
読むこと	○本の紹介カードに書かれている登場人物の様子が具体的に表現されている箇所として適切なものを選択するという問題については、市より2. 3ポイント、全国より3. 4ポイント高い。 ○地の文にある言葉を発した人物を文章の中から抜き出す問題については、市より1. 0ポイント、全国より1. 4ポイント高い。 ●目的に応じて必要な情報を読み取るという問題については、市より4. 2ポイント、全国より3. 7ポイント低い。	・小説などの教材を通して、場面や登場人物の心理状態を捉えるなどして、登場人物の心情や行動の背景を考えさせる。 ・説明文の読解では、日頃の単元の読解で筆者の主張を短作文にまとめさせるなどして、筆者の主張の中心的部分を押さえられるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○話し言葉と書き言葉との違いを理解するという問題については、市より3. 7ポイント、全国より3. 4ポイント高い。 ●楷書と行書との違いを理解するという問題については、市より17. 1ポイント、全国より19. 1ポイント低い。	・文法の学習材については、プリントを適宜利用するなどして品詞の分類などについて押さえさせる。また、漢字については各学年とも単元テストを実施し、漢字の定着を図る。古文の仮名遣いについては、古文の学習材だけでなく、詩や短歌、俳句など古典以外の学習材でも出てくることはあるので、適宜指導する。

宇都宮市立陽南中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

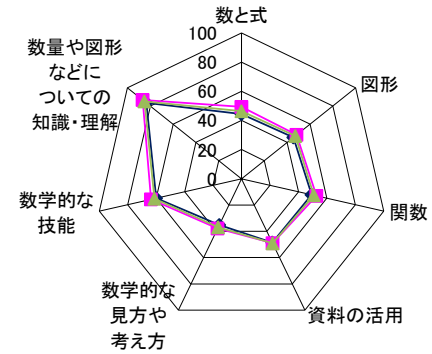
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	71.6	71.4	70.4
	図形	66.5	67.9	66.0
	関数	56.9	58.6	57.4
	資料の活用	58.1	58.9	57.6
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	70.0	69.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	59.1	61.9	60.2



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	44.4	49.4	46.3
	図形	45.4	48.3	47.1
	関数	49.3	52.7	50.8
	資料の活用	48.6	49.0	49.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	35.2	37.8	36.8
	数学的な技能	60.1	63.7	61.2
	数量や図形などについての知識・理解	83.5	86.7	85.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○ 負の数を含んだ計算では市平均を14.5ポイント、全国平均を10ポイント上回っている。 ○ 他の多くの内容でも市平均を5ポイント程度上回っていて、理解の定着が見られる。 ● 等式の変形では、市の平均を1.2ポイント上回っているものの、全国平均を3.6ポイント下回っている。	・小学校程度の基礎的な計算力が身につけていない生徒が多数見受けられるので、授業のスタートの5分間の計算演習を継続していくと共に、個別指導により力を入れて指導していく。
図形	○円柱の体積を求める問題では市平均を8ポイント、全国平均を8.6ポイント上回っている。 ●錯角の位置や平行四辺形の性質、仮定の意味などの証明につながる内容は全般的に苦手とし、市や全国平均を5ポイント程度下回っている。 ●回転体になる平面図形や立方体の見取り図など、平面図形、空間図形全般を苦手とし、市や全国平均を5ポイント程度下回っている。	・平面図形や空間図形を苦手としている生徒が多数みられるので、基本的な問題を多く取り入れ、段階的に理解していけるようにする。 ・演習問題の中で、1、2年時の内容の学び直しを含めて、数多くの問題を解かせ、確実に習得させるよう努めていく。
関数	関数の関係を表現する問題や比例のときの値を求める問題では市平均、全国平均とほぼ同じである。 ○グラフを基に答える問題では市平均を7ポイント、全国平均を7.3ポイント上回っている。 ● 1次関数の表を選ぶ問題では市平均を3.6ポイント、全国平均を4.2ポイント下回っている。	・関数についての苦手意識が強い生徒が多いので、実生活に役立つ事例や興味・関心を高める事例を意識して指導していく。また、「表」「式」「グラフ」を関連づけながら、理解を促すよう努めていく。 ・考え方を丁寧に、繰り返し指導することで理解を深めさせる。
資料の活用	●度数分布表から相対度数を求めたり、「同様に確からしい」ことを説明を選ぶ問題では市平均、全国平均を3ポイント程度下回っている。	・基本的な用語を確実に理解させていく。 ・資料の傾向を捉え、理由を的確に説明できるよう、普段の授業から言語活動を意識して取り入れ、自分の考えを発表できるよう指導の充実を図る。

宇都宮市立陽南中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、「とてもそう思う」+3.5、「そう思う」+1.4と肯定的にとらえた割合が高く、自己肯定感の高い生徒が多い。本校の指導の指針である「褒めて伸ばす」が成果を上げていると思われる。

○「学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか」に対して、「そう思う」+4.2と高い。また「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、「そう思う」が+3.1高い。良好な友人関係を築いている生徒が多く、いじめ撲滅に向けた指導や、道徳の校内研究の成果が出ていると思われる。

○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」に対して、「当てはまる」+2.4、「どちらかといえば当てはまる」+5.5高い。地域と連携し、ボランティア活動を進めている成果が出ていると思われる。

●「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して、「3時間以上」が-3.3と低い一方、「1時間～30分」が+2.8と高い。また、「家で、学校の授業の復習をしていますか」に対して「している」との回答は-7.8と少ない。全体的に、家庭での学習時間が少ない傾向がみられる。

・「普段、1日当たりどれくらいの時間、部活動을しますか」に対して、「3時間以上」が+4.1、「3～2時間」が+12.3と高い。部活動に熱心に取り組んでいる姿があり、優秀な成績も多数収めている。一方で、家庭学習を圧迫しないよう、適切な練習時間での実施を図っている。

宇都宮市立陽南中学校（第3学年）  
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の確認	保護者に、家庭学習の確認を依頼する。週1回配布されるプリントに、学習している姿や成果物を確認した上で保護者がサインをする。そのプリントを週1回提出し、蓄積し、年に数度ふり返る。	慶応義塾大学の中室准教授の研究知見に基づいて、実施している。今年度4月から実施したので、良好な成果が出ることを期待している。
落ち着いた学習環境の維持	朝の読書の時間を短縮日課でも実施(今年度から)教室の前方黒板は、常に全面が使用できる状態にする。掲示物・清掃用具等の整理整頓ペンキの剥がれた箇所を専門委員が補修	関りの深い質問項目はあまりないが、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、「そう思う」は75.7であり、県平均を+3.8上回っている。学芸委員会が「学力向上に貢献する」という目標をもって活動しており、壁の補修も生徒の手で行っている。生徒の様子では、静寂で落ち着いた雰囲気の中で一日のスタートが切れており、学習環境については保護者・地域の方から良好な意見をいただいている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
学校の授業以外に勉強する時間が、少ない傾向にある。	家庭学習の充実	家庭学習の確認プリントを、「保護者が見よう、生徒が記入しよう」とする意欲が高まるように、改定する。保護者会において、家庭学習の確認について周知を継続していく。